

令和4年度 根室地区の研究活動

研修部長 中標津町立中標津小学校
校長 佐藤 玲子

1 はじめに

根室管内には、現在小学校20校、中学校16校あり、本年度から「根室管内小中学校校長会」という名称を「根室管内校長会」変更し、1市4町の40名の会員で組織している。年一回、「校長研究大会」を開催し、会員全員が会同して、会員相互の連携・協調のもと、当地区の児童生徒の「生きる力」を育む学校教育の推進や学校経営の向上に努めている。



新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、2年間会同を中止したが、本年度は3年ぶりに会同による開催となった。

2 研究計画

(1) 研究の方針

- ① 「生きる力」「知・徳・体」の調和の取れた豊かな人材育成を目指し、組織的に研究と修養に努める。
- ② 道小、道中、根室管内単位校長会、根室管内市町教育委員会、根室教育局との連携を図る。

(2) 研究主題

「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」

学校教育においては、教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、児童生徒に未来を作り出していくために必要な力をはぐくむ必要がある。また、新学習指導要領においては、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携協力しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちにはぐくむ「社会に開かれた教育課程」の実現の大切さについても述べている。

このことを踏まえ、私たちは根室の地に刻まれた深い歴史と先人の志を継承し、生涯学習社会における学校教育の望ましいあり方を校長という立場から究明し、充実した学校経営を推進するために上記の研究主題を設定した。

本年度は、5か年の継続研究の3年次として、研究内容の共通理解を深め、諸課題の解決を目指す。また、全国・全道大会における提言や参加につながるよう研究協議を重視する。

(3) 活動計画

- ① 根室管内小中学校校長研究大会の開催
○会場 中標津町トーヨーグランドホテル

○期日 令和4年8月26日（金）午前開催

これまで校長研究大会と地区教育経営研究大会を2日間で実施していたが、それぞれの大会の内容を精査し、1日日程で実施することとした。

② 全道・全国研究大会への参加

○道小旭川大会（ハイブリッド開催）：令和4年9月9日

提言発表「根室の教育風土を生かして学校教育を実現する活力ある組織づくりと校長の役割と指導性」（別海町立野付小学校：打川 真由美 校長）

○全小連島根大会（オンライン開催）：令和4年10月14日

○全日中北海道・札幌大会：令和4年10月20日～21日

3 研究活動の概要

(1) 分科会の構成

令和2年度より、道小は5領域13分科会、道中は5つの分科会で研究を推進している。根室管内校長会では、これまで4つの分科会で充実した協議を行ってきたことから、今後も以下3点を踏まえて、「教育課題」・「組織・運営」・「指導・育成」・「教育課程」の4分科会を設定し考究する。

①小学校・中学校で協働的な問題解決が図れるようにする

②道小・道中の研究領域や分科会の内容を網羅する

③全国・全道での提言発表との関連を図る

また、校長研究大会における各自のレポートを踏まえた研究協議の成果を全道・全国提言の基軸としている。

(2) 一人1レポートを踏まえた研究協議

A4用紙1枚に、表面にはレポートを、裏面には学校経営方針概要を記載する。

<第1分科会「教育課題」>

研究課題：家庭・地域や校種間における連携・協働の推進における校長の在り方
視点①地域や関係機関等との連携による学校経営の充実を目指した取組の推進
視点②教職員の意識改革、関係機関と連携した人材育成による指導力の向上を目指した取組の推進

<第2分科会「組織・運営」>

研究課題：学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長の在り方
視点①学校経営ビジョンの実現に向けた運営組織の構築
視点②活力ある運営を実現するための組織の活性化

<第3分科会「指導・育成」>

研究課題：これからの学校を担うリーダーの育成と校長の在り方
視点①子どもや保護者、地域の信頼に応えられる教員の育成
視点②学校教育への展望をもち、実践力・応用力のある人材の育成

<第4分科会「教育課程」>

研究課題：豊かな心と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方

視点①健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進

視点②教科等横断的な視点で組み立てていく教育課程の編成・実施・評価・改善

4 おわりに

2年間の会同中止で、本年度の研究大会が初めての参加となる会員が3割強を占めた。本年度は諸般の事情で60分という限られた時間の中ではあったが、分科会は効果的に運営され、成果を上げた。不確実性が高く、正解のない時代だからこそ、校長自身が常に変化に對峙し、会員相互の連携を深め、校長としての職能向上及び教育課題の解決を目指して活動を推進していきたい。